



PGI Visual Fortran<sup>®</sup> for Windows<sup>®</sup>

Release 7.2

For Microsoft<sup>®</sup> Visual Studio

– インストールの手引き –

2008年11月版 (Rev. 7.2-B)

株式会社 ソフテック HPC ソリューション部

(<http://www.softek.co.jp/SPG/>)

***SofTek***

## 目次

<b>1</b>	<b>はじめに</b>	<b>1</b>
1.1	本文書の内容	1
1.2	PVF 製品のソフトウェア情報パッケージについて	1
1.3	ライセンス形態	1
<b>2</b>	<b>PVF コンパイラのインストール準備</b>	<b>3</b>
2.1	インストールする PVF コンパイラのソフトウェアの種別	3
2.2	以前のバージョンをインストールしている場合の留意点	3
2.3	PVF ソフトウェアのディレクトリ構造	4
2.4	インストールに必要なディスク容量およびアプリケーション	5
2.5	ソフトウェアの準備	5
<b>3</b>	<b>ソフトウェアのインストール</b>	<b>6</b>
3.1	MICROSOFT® VISUAL STUDIO 2005/2008 のインストール	6
3.2	PVF コンパイラのインストール	7
3.3	正規ライセンス取得のための HOSTID と HOSTNAME	9
3.4	正式ライセンスの取得	10
<b>4</b>	<b>ライセンスの設定方法等</b>	<b>10</b>
4.1	ライセンスファイル (LICENSE.DAT) の修正と配置	10
4.2	FLEXLM ライセンス・マネージャの起動	11
4.3	他マシンにインストールして使用する際のライセンスの設定 (PVF SERVER 製品の時のみ)	14
4.4	PVF コンパイラの起動	15
4.5	PVF コンパイラ・ソフトウェアのアンインストール	15
4.6	PVF コンパイラの入門ガイド	16
4.7	オンラインドキュメントの参照	16
4.8	バグフィックスの適用	16
<b>5</b>	<b>サポートサービスについて</b>	<b>17</b>
5.1	初期サポートサービス	17
5.2	ソフトウェア情報パッケージご購入ユーザのサポート窓口	17

# 1 はじめに

## 1.1 本文書の内容

本書は、The Portland Group Inc.（以下、「PGI」と称します。）の PGI Visual Fortran®（以下、「PVF」と称します。）コンパイラ製品のインストールおよびライセンス設定方法を記述したドキュメントです。

## 1.2 PVF 製品のソフトウェア情報パッケージについて

弊社にて PVF 製品の「ソフトウェア情報パッケージ（サブスクリプション）」を用意しております。ソフトウェア情報パッケージをご購入頂くことにより、以下のサービスが受けられます。

- サブスクリプション契約期間中におけるソフトウェア製品の無償バージョンアップ
- 電子メール等によるコンパイラ利用上のテクニカル・サポート
- 現在利用している製品より価格が上位の製品へのアップグレードにおける特典

同パッケージを未購入の方でも、製品出荷後 30 日間はインストールに関するサポートサービス（電子メール、FAX のみ）を受けることができます。ソフトウェア情報パッケージで提示しております内容を希望される場合は、本パッケージのご購入が必要となります。

ソフトウェア情報パッケージの有効期間は、出荷セットに同梱致しました「ソフテック エンドユーザ登録用紙」の「プロダクト情報」の欄に記載されておりますのでご確認下さい。また、本パッケージは製品ご購入後 1 年間有効（製品ご購入時に設定される無償保証期間は含みません）とし、2 年目以降もご希望のユーザ様には、継続購入して頂く必要がございます。

## 1.3 ライセンス形態

PVF コンパイラのライセンス形態は、ノードロック形態並びにフローティング・ライセンス形態のどちらにおいても以下のような FLEXlm 形式のライセンスとなります。下記に本製品のライセンス形態と制限事項を説明致します。

表 1 ライセンスの形態

ライセンスタイプ	内容
FLEXlm 形式	任意のユーザアカウントでコンパイラを使用できます。コンパイルを同時に行えるユーザ数の制限があります。また、ネットワークカードが実装されている必要があること、およびライセンスサーバデーモンを起動する必要があります。

表 1 のコンパイルを同時に行えるユーザ数は、ご購入頂きました製品タイプによって異なります。PVF ノードロック製品は、インストールするシステムが 1 台に固定されるライセンス製品です。また、PVF フローティング・ライセンス製品では同じネットワークにつながった任意の Windows®マシン上にインストールすることが可能です。PVF Server 製品は、任意の 1 台のシステムを「ライセンス管理のためのサーバ」として兼用します。

PVF のライセンスキーは、下記の動作を対象マシン (PVF フローティング・ライセンスの場合は FLEXlm ライセンス管理サーバに対して) に行った場合、ライセンスキーが無効となり、ライセンスキーの再発行が必要となりますのでご注意ください。下記の作業を行っても、ライセンスの変更を行わなくてもよい場合がございますが、開発元の PGI が提示している制限ですので、あらかじめご了承下さい。

- マザーボードを交換したとき
- ネットワークカードを別のスロットへ移動したとき
- 別のネットワークカードを追加したとき
- ネットワークカードをマザーボードから抜き、新しいカードと交換したとき

## 2 PVF コンパイラのインストール準備

### 2.1 インストールする PVF コンパイラのソフトウェアの種別

PVF コンパイラ・ソフトウェアは、Windows OS が 32 ビットか、あるいは 64 ビットの種別と使用する Visual Studio のバージョンに応じて、以下の四種類のソフトウェア・ファイルを提供しております。使用する Windows の OS 製品/Visual Studio に合ったソフトウェアを弊社からダウンロードしてください。

	32 ビット Windows の場合	64 ビット Windows の場合
PGI Visual Fortran 2005	pgivf-05-xxx.exe	pgivfx64-05-xxx.exe
PGI Visual Fortran 2008	pgivf-08-xxx.exe	pgivfx64-08-xxx.exe

① 32 ビット Windows®用ソフトウェア

本ソフトウェアは、32 ビットの Windows®のみにインストール可能です。32 ビットモードのコンパイラ・システムがインストールされます。なお、このコンパイラでは、64 ビット用の実行モジュールは作成できません。

② 64 ビット Windows®用ソフトウェア

本ソフトウェアは、64 ビットの Windows®のみにインストール可能です。32 ビットモードと 64 ビットモードの二つのコンパイラ・システムがインストールされます。従って、このコンパイラでは、32 ビット用並びに 64 ビット用の実行モジュールを作成できます。

### 2.2 以前のバージョンをインストールしている場合の留意点

以前のバージョン (PGI 7.1) をインストールしてある場合で、過去のバージョンが必要な場合は、アンインストールすることを推奨します。但し、アンインストールをせずに、過去のバージョンを保持することもできます。アンインストールは、Windows® の「コントロールパネル」の中の「アプリケーションの追加と削除」で行うことが可能です。PGI Visual Fortran のコンポーネントは、以下の二つのモジュール名で識別できます。(②に示す 7.1-7 は、一例です。インストールされたバージョン番号が記されます)

① 「PGI Visual Fortran」

② 「PGI Visual Fortran (Compilers only) 7.1-7」

①は、Visual Studio 2005 用の PVF のための統合用モジュールです。これは常に新しいバージョンをインストールする度に上書きされますが、予め削除しておくことをお勧めします。②は、PGI のコンパイラ本体部分のモジュールです。古いバージョンが必要な場合は、これも削除してください (なお、これを保持したい場合は、このまま残すこともできます)

また、過去のバージョンをインストールしてある場合は、PGI コンパイラのインストールを行ったディレクトリの配下に license.dat がセットされております。このファイルを予め、licence.backup 等の名前に変更し、この license.dat 名のファイルを必ず削除してください。

【デフォルトのインストール・ディレクトリ】

C:\Program Files\PGI\license.dat (このファイルを削除するか、別名にしてください)

2.3 PVF ソフトウェアのディレクトリ構造

インストールするディレクトリをデフォルトのままで行った場合、以下のディレクトリ・パスにインストールされます。インストールを行うデフォルトのトップ・ディレクトリは、一般に、C:\Program Files\PGI となります。32 ビット Windows® (以下、「Win32」と言う。) の場合、並びに 64 ビット Windows® (以下、「Win64」と言う。) の場合は、以下のようなパス構造となります。

- Win32 環境での デフォルト・インストール・ディレクトリ

C:\Program Files\PGI\win32\7.2-5\

- Win64 環境での デフォルト・インストール・ディレクトリ

C:\Program Files\PGI\win64\7.2-5\ (64 ビットモード)

C:\Program Files (x86)\PGI\win32\7.2-5\ (32 ビットモード)

※ 7.2-5 は「バージョン番号」で、ソフトウェアのバージョンにより変化します。

さらに、以下の三つのディレクトリ (Microsoft Open Tools、FLEXlm) が生成されます。

C:\Program Files\PGI\Microsoft Open Tools 9 (マイクロソフト社のユーティリティ)

C:\Program Files\PGI\flexlm (ライセンス管理マネージャ)

【Win64 上でのインストールされるファイルの場所とそのイメージ】

Name of directory	Contents
C:\Program Files (x86)\Microsoft Visual Studio 9\PGI Visual Fortran	PVF 用の統合ソフトウェア (32 ビット・エリアに格納)
C:\Program Files (x86)\Microsoft Visual Studio 9\PGI Visual Fortran\Doc	PVF ドキュメント類
C:\Program Files\PGI\win64\7.2-5\bin C:\Program Files (x86)\PGI\win32\7.2-5\bin	PGI コンパイラ、ツールのバイナリ (64bit 用、32bit 用)
C:\Program Files\PGI\win64\7.2-5\lib C:\Program Files (x86)\PGI\win32\7.2-5\lib	PGI コンパイラ、ツールのライブラリ (64bit 用、32bit 用)
C:\Program Files\PGI\win64\7.2-5\include C:\Program Files (x86)\PGI\win32\7.2-5\include	PGI コンパイラのヘッダファイル (64bit 用、32bit 用)
C:\Program Files\PGI\win64\7.2-5\REDIST C:\Program Files (x86)\PGI\win32\7.2-5\REDIST	再配布用の PGI ランタイムライブラリ (64bit 用、32bit 用)
C:\Program Files\PGI\win64\7.2-5\src C:\Program Files (x86)\PGI\win32\7.2-5\src	PVF が提供する modules のためのソースファイル
C:\Program Files\PGI\Microsoft Open Tools 9	マイクロソフト・ツール

## 【Win32 上でのインストールされるファイルの場所とそのイメージ】

Name of directory	Contents
C:\Program Files\Microsoft Visual Studio 9\PGI Visual Fortran	PVF 用の統合ソフトウェア (32 ビット・エリアに格納)
C:\Program Files\Microsoft Visual Studio 9\PGI Visual Fortran\Doc	PVF ドキュメント類
C:\Program Files\PGI\win32\7.2-5\bin	PGI コンパイラ、ツールのバイナリ (32bit 用)
C:\Program Files\PGI\win32\7.2-5\lib	PGI コンパイラ、ツールのライブラリ (32bit 用)
C:\Program Files\PGI\win32\7.2-5\include	PGI コンパイラのヘッダファイル (32bit 用)
C:\Program Files\PGI\win32\7.2-5\REDIST	再配布用の PGI ランタイムライブラリ (32bit 用)
C:\Program Files\PGI\win32\7.2-5\src	PVF が提供する modules のためのソースファイル
C:\Program Files\PGI\Microsoft Open Tools 9	マイクロソフト・ツール

## 2.4 インストールに必要なディスク容量およびアプリケーション

PVF コンパイラをインストールする際は、一時的に約 1GB (定常的には 500MB を使用) のハードディスク容量が必要になります。インストールするマシンのディスク容量を事前にご確認下さい。

## 2.5 ソフトウェアの準備

本コンパイラ製品をインストール際は、「システム管理者権限」でインストールを行ってください。なお、すでに [PVF の評価版ソフトウェアをインストール済み](#)の場合は、[3.3 項から手続きを開始](#)してください。

PGI コンパイラのソフトウェアは、定期的にバグフィックス・リリースをしておりますので、弊社のサイトから最新 (直近) のソフトウェアをダウンロードしてご使用ください。ダウンロードしたファイルは、Windows®上の一時的なフォルダ内に保存してください。

## 3 ソフトウェアのインストール

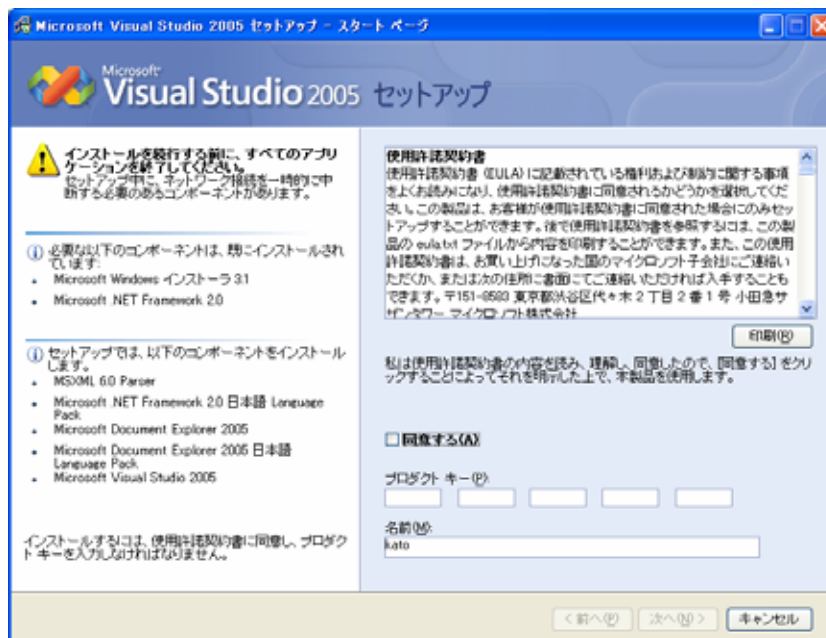
### 3.1 Microsoft® Visual Studio 2005/2008 のインストール

PVF 2005/2008 製品は、そのインストール前に必ず、Visual Studio 2005/2008 Standard Edition 以上、あるいは、無償で入手可能な Visual Studio 2008 Shell integrated mode 日本語版をシステム上にインストールしておく必要があります。64 ビット Windows 上では、Visual Studio の 32 ビット用のコンポーネントの他に、64 ビット対応のコンポーネントもインストールされます。必ず、インストールの最中に現れる「セットアップ画面」(以下の画面例) に表示される「コンポーネント」の内容をお確かめ下さい。

Microsoft Visual Studio ソフトウェアの導入に関しては、別のドキュメントとして「PGI Visual Fortran のための Microsoft(R) Visual Studio(R) 導入ガイド (日本語環境 Visual Studio の構築)」がありますので、これをご覧のうえ、日本語モードの Microsoft Visual Studio 統合開発環境を実装してください。

Microsoft Windows Vista 上の Visual Studio 2005 には、以下で述べた Visual Studio のセットアップの他に、Visual Studio Service Pack 1 並びに the Service Pack 1 Update for Vista のインストールが必要です。Microsoft のホームページからダウンロードして、インストールしてください (<http://support.microsoft.com/kb/936453/ja>)。

以下の説明は、有償版である「Visual Studio 2005/2008 Standard Edition」の場合のインストールイメージです。Visual Studio 2008 Shell integrated mode を使用する場合は、以下の説明は無視してください。



(上図は、32 ビット Windows 上でのセットアップ画面)

上記画面で、プロダクトキーを入力して次に進みますと、以下の画面が現れます。Microsoft の開発言語を選択するものですが、用途に応じて選択してください。Visual C++ は、必ずインストールしてください。(一般には、Visual C++と Visual Basic 等を選択します)



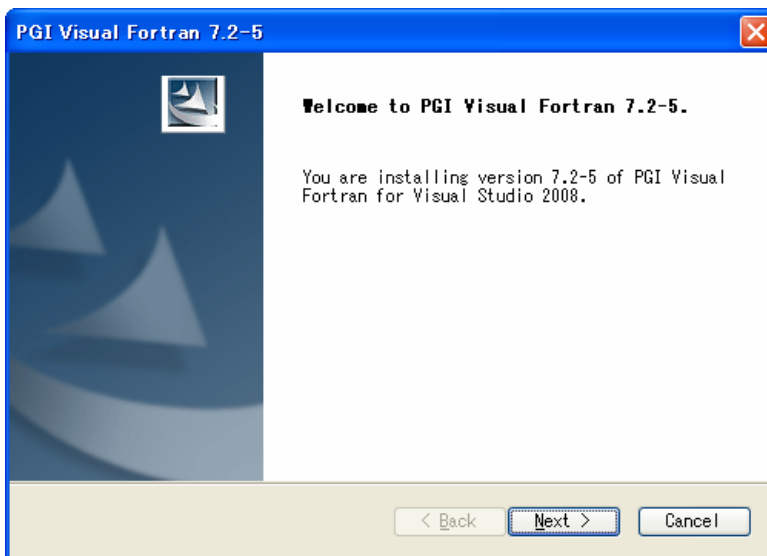


その後、インストールが始まり、インストール終了まで 15～20 分程度の時間が掛かります。終了時に、以下の画面が出ますので、これにて Visual Studio のセットアップの終了となります。



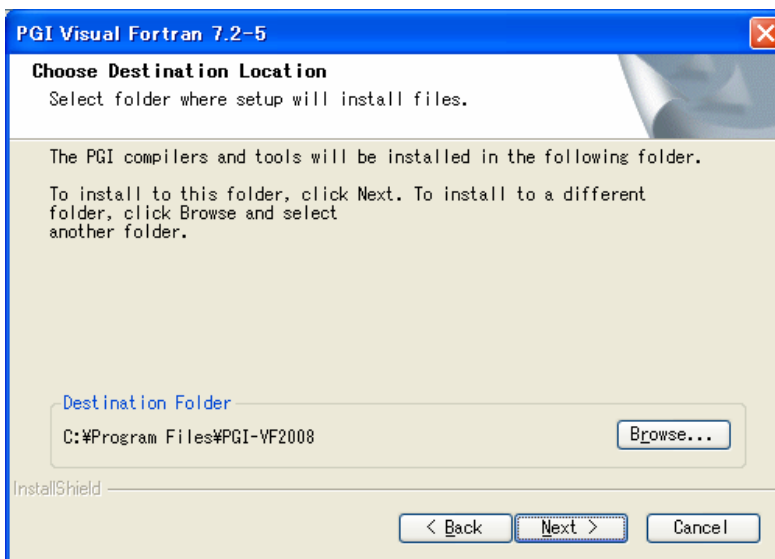
### 3.2 PVF コンパイラのインストール

ダウンロードした自己解凍形式の `pgivf-05-xxx.exe`、`pgivf-08-xxx.exe` (32 ビット版) あるいは、`pgivfx64-05-xxx.exe`、`pgivfx64-08-xxx.exe` (64 ビット版) のいずれかのファイルをダブルクリックすることで、インストールが開始されます。ウィザードに従って、インストール手続きをお進めください。(以下の初期画面が出るまで、多少お時間が掛かります)



ウィザード画面は、以下の順番で進行します。

- PGI License Agreement/AMD ACML Library の使用許諾確認
- ユーザ情報入力（名前、会社名）
- PGI コンパイラ自身のコンポーネントをインストールする場所を指定します。Win64 上では、64ビット用と32ビット用の二つのインストール場所を設定します。Win32 上では、32ビット用のみの指定となります。（一般的には、デフォルトのまま、「Next」をクリックしてください。）



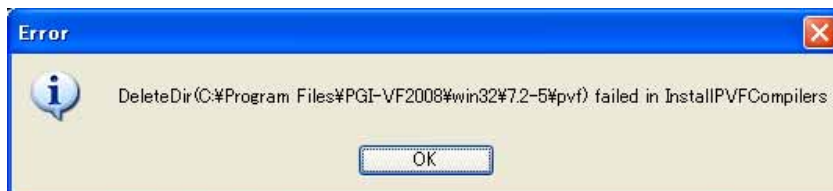
- Win64 上では、次に32ビット用のインストール場所を設定します。（一般的には、デフォルトのまま、「Next」をクリックしてください。）

その後、以下のような確認画面が現れますので、確認した上で次に進んでください。

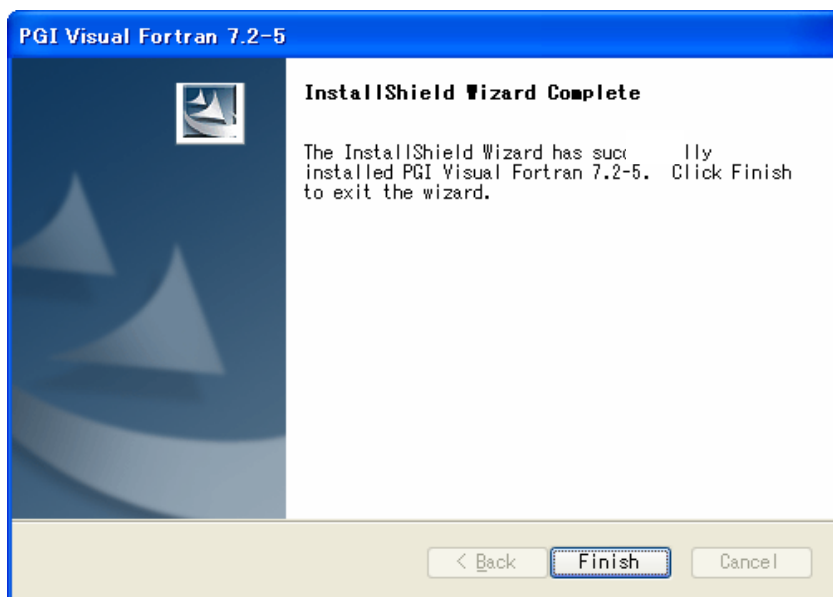
- コンパイル時にオブジェクトの一次的な中間ファイル使用するフォルダを指定します。デフォルトは、C:\temp です。指定されたフォルダは存在しなければ自動的に作成されます
- Windows システム上に登録される「プログラムフォルダ名」の確認
- Check Setup Information の確認画面

(その後、インストールが開始されます。多少時間が掛かります)

インストールの最後のフェーズで、以下のような二つのエラーメッセージがでる場合がありますが、これは無視しても問題ありません。



以下の終了画面が現れ、PVF のインストールは終了します。この時点では、ライセンス管理マネージャ (FLEXlm) の設定が終了していませんので、まだ PVF は使用できません。



### 3.3 正規ライセンス取得のための Hostid と Hostname

PGI ソフトウェアをインストールしたディレクトリ (デフォルトは、C:\Program files\PGI) 直下に、license.info ファイルが生成されています。このファイルを開くと、内容は以下の例のように記述されています。この中の FLEXlm Host ID: の後に記述されたものが、**hostid 情報**となります (以下の例では、“001731715acd” という文字列です)。

For a permanent license, please read the order acknowledgment that you received. Connect to <https://www.pgroup.com/support/keylogin.php> with the username and password in your order acknowledgment.

```
FLEXlm Host ID: 001731715acd
Installation: C:\Program Files\PGI\
PGI Release: 7.2
```

また、ライセンスを取得する際に必要な「hostname」情報は、PGI コマンド・プロンプト内で以下のコマンドで取得できます。コマンド・プロンプトは、全てのプログラム→PGI Visual Fortran 2005(2008) → PGI Visual Fortran Tools – PVF Command Prompt でウィンドウが開きます。” lmutil lmhostid -hostname” コマンドを実行しますと、ホスト名が出力されます。

```
C:\Documents and Settings\kato> lmutil lmhostid -hostname
lmutil - Copyright (c) 1989-2007 Macrovision Europe Ltd. and/or Macrovision Corporation. All Rights Reserved.
The FLEXnet host ID of this machine is "HOSTNAME=kato5"
```

### 3.4 正式ライセンスの取得

PGI 社の Web サイトにおいて、正式なライセンスキーの発行依頼を行って下さい。ライセンスキーの発行には上記で述べた **hostid 情報** と **hostname 情報** が必要です。この二つの情報を PGI 社のライセンス発行サイトで入力することにより、即座にライセンスキーが発行されます。ライセンス発行方法につきましては、別紙「**ライセンス発行の手引き**」をご参照下さい。

## 4 ライセンスの設定方法等

正式ライセンスキーを取得した後、FLEXlm 形式のライセンス設定方法を以下に説明します。

### 4.1 ライセンスファイル(license.dat)の修正と配置

FLEXlm 形式のライセンスは、ライセンス部の一部修正が必要となります。前述のライセンス発行手続き後、取得したライセンスキーは下記のような形態となります。

```
SERVER {ホスト名} <hostid> 27000
DAEMON pgroupd
PACKAGE pgi72-pvf pgroupd 7.2 1C6259E01F65 COMPONENTS="pgi-pvf:7.2 ¥
pgi-f95-win64:7.2 pgi-f77-win64:7.2 pgi-f95-win32:7.2 ¥
pgi-f77-win32:7.2 pgi-dbg:7.2" OPTIONS=SUITE SIGN="1A31 7098 ¥
560E 5FFD 04B2 3F95 3ED0 317B 9476 F166 6F30 A1A8 E8A0 22D1 ¥
F740 0471 94BE 39A4 AFCD 2470 3D37 8C62 5F63 67B0 BD11 3A53 ¥
9144 E493 1251 E778"
FEATURE pgi72-pvf pgroupd 7.2 31-dec-0 1 B005B50D2192 ¥
VENDOR_STRING=514474:4:ws HOSTID=001731715acd DUP_GROUP=U ¥
SUITE_DUP_GROUP=U TS_OK SIGN="048D 2273 A775 F98B DD04 B933 ¥
D9D9 AC13 3BA6 5341 7D20 A91D E008 89E4 BBC6 1629 A12A 602F ¥
703F F41E 49E5 04CE 792C C6C4 A054 145E 7D88 D765 BA6C 267B"
(以下、省略)
```

上記のような取得した新ライセンスキーを確認した上で、PGI コンパイラをインストールした Windows®システム上のインストール・ディレクトリ（例：C:\Program Files\PGI）直下に license.dat ファイルとして配置（同名の試用ライセンスファイルを上書き）します。

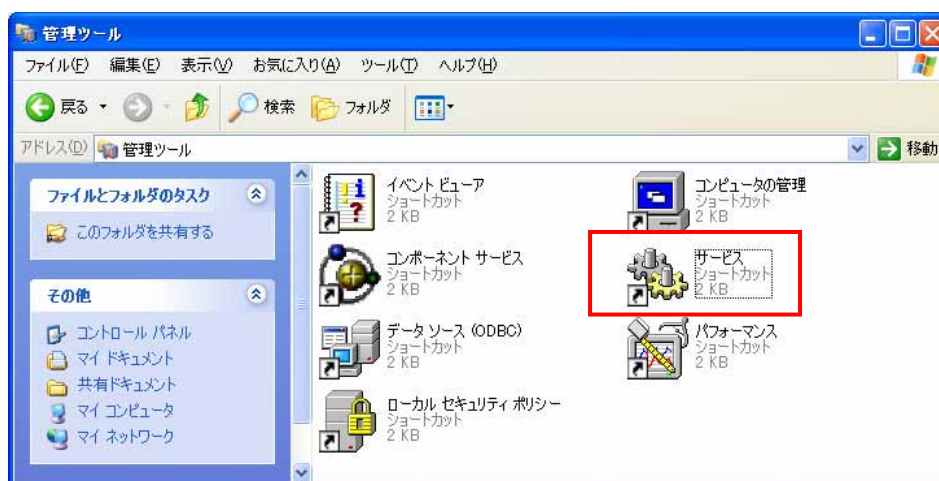
license.dat の一行目 (SERVER 行) には、インストールしたマシンのホスト名が記述されております。3.3 項の例では、HPG-PENTIUMD がインストールしたホスト名です。この内容が正しいことを確認してください。これ以外に変更しないでください。

以上で、正式ライセンスの取得と設定は終了です。

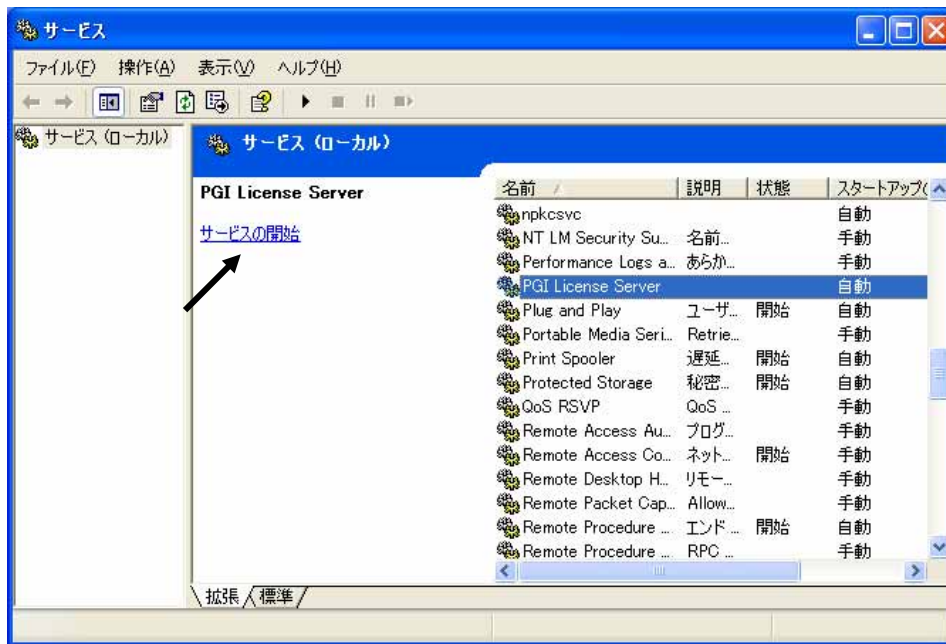
## 4.2 FLEXlm ライセンス・マネージャの起動

ライセンスを管理する FLEXlm マネージャを開始する手続きを行います。一般には、マシンの再起動後に、自動的に FLEXlm マネージャを立ち上げるようになっています。マシンを再起動するか、あるいは、以下の方法で明示的に起動させます。

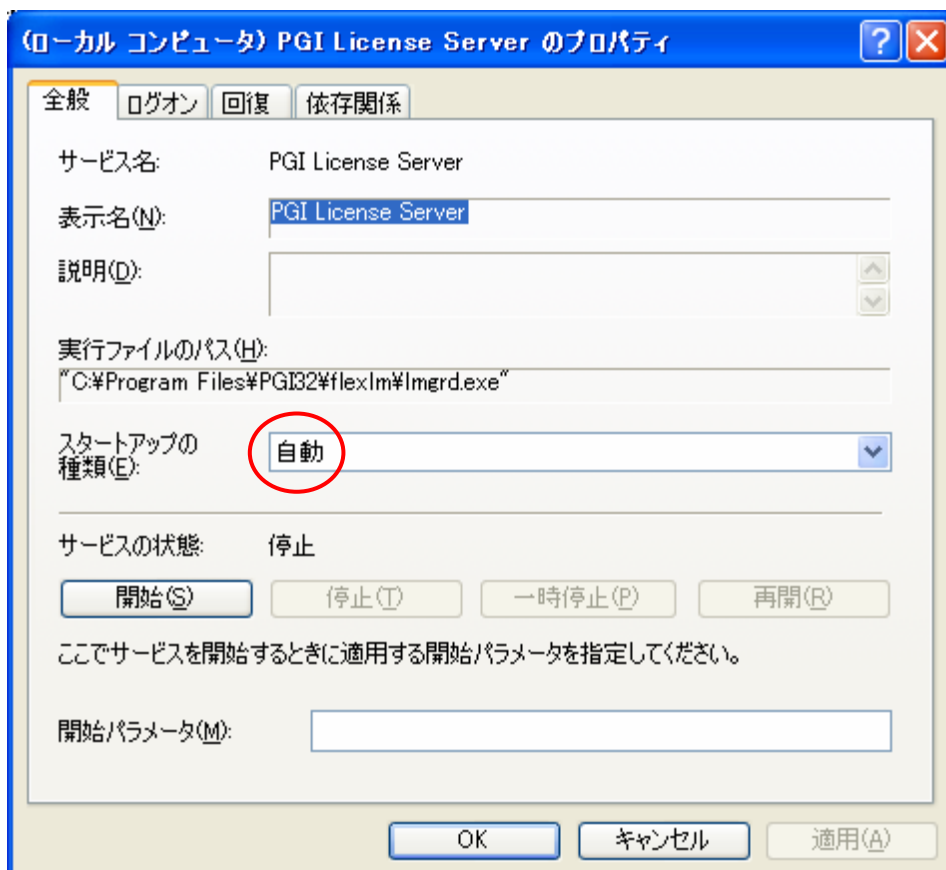
Windows® の「コントロールパネル」を開き、「管理ツール」を起動します。管理ツールを起動した後、以下のような画面が現れますので、この中の「サービス」をクリックし、その画面を出します。



以下の画面は、Windows® システムの「サービス」の開始、終了、再起動をコントロールするものです。この中に、「PGI License Server」と言う名称のサービスがありますので、それをクリックして選択します。その際、以下のような画面となりますので、「サービスの開始」をクリックし実行してください。これによって、ライセンス管理マネージャ起動し、PGI コンパイラを使用することが出来ます。



「PGI License Server」のサービスの「プロパティ」画面（32ビット製品の場合の一例）は、上記画面上の「PGI License Server」部分を右クリックするとメニューが表示されます。その中の「プロパティ」を選択することにより、以下の画面が表示されます。以下の画面の中央部に「スタートアップの種類」があり、これが「自動」となっている場合、システムが起動した際に自動的にこのサービスが立ち上がります。



以上で、PGI コンパイラのインストールとライセンスの設定は終了です。

#### (トラブル・シューティング)

PGI コンパイラを使用する際に、以下のようなエラーメッセージが現れた場合、license.dat が設定されていないか、上記の FLEXlm マネージャが起動していないことが考えられます。正規ライセンスファイルが、C:\Program files\PGI\license.dat に設定されているか、また、FLEXlm マネージャが動作しているかをご確認ください。

なお、FLEXlm ライセンス・マネージャの実行ログファイルは、C:\Program files\PGI\flexlm\license.log にありますので、このファイルを見ることで問題の糸口が見つかることがあります。

```
PGI$ pgf90 test.f
pgf90-win64: LICENSE MANAGER PROBLEM: Failed to checkout license
pgf90-win64: LICENSE MANAGER PROBLEM: Cannot connect to license
server system.
The license server manager (lmgrd) has not been started yet,
the wrong port@host or license file is being used, or the
port or hostname in the license file has been changed.
Feature:      pgf90-win64
Server name:  192.168.0.27
License path: C:\PROGRA~1\PGI\license.dat;C:\PROGRA~1\PGI\license.dat
FLEXnet Licensing error:-15,10.
System Error: 10061 "WinSock: Connection refused"
For further information, refer to the FLEXnet Licensing End User Guide,
available at "www.macrovision.com".
```

#### 【その他のライセンス・マネージャ関連のメッセージ】

- ‘LICENSE MANAGER PROBLEM: No such feature exists.’  
PGI コンパイラを起動した際に、このメッセージが出た場合は、license.dat ファイルの中に含まれている「ライセンスキー」が正しくないことを意味します。従って、正規キーが含まれた license.dat ファイルであるかをご確認下さい。
- ‘LICENSE MANAGER PROBLEM: Cannot connect to license server system.’  
PGI コンパイラを起動した際に、このメッセージが出た場合は、PGI License Server が起動していない原因が考えられます。
- ‘ローカルコンピュータ上の PGI License Server サービスは起動して停止しました。パフォーマンス、ログ、警告サービスなど、一部のサービスは作業がない場合自動的に停止します。’  
PGI License Server を起動する際に、あるいは、システムの起動時に自動的に PGI License Server が起動された際に、上記のメッセージが出た場合は、license.dat ファイルの中に含まれている「ライセンスキー」が正しくないことを意味します。
- ‘LICENSE MANAGER PROBLEM: License file does not support this version’  
Feature : pgi-pvf-standard  
Application version : License version 7.2 > 0.0  
このメッセージは、現在のライセンスファイルの中に正規のキーが含まれないことを意味します。ライセンスファイル (license.dat) をご確認ください。
- Windows(R) 上での License Server は、デフォルトでは、警告あるいはエラーメッセージをその都度、ポップアップ・メッセージとして出力します。これを抑止するためには、環境変数 FLEXLM\_BATHCH を設定して、この値を 1 と定義することで実現できます。(PGI

のデフォルトの起動バッチファイルでは、この設定がすでになされております)

### 4.3 他マシンにインストールして使用する際のライセンスの設定(PVF Server 製品の時のみ)

PVF Server フローティング・ライセンスは、ネットワーク上の任意のマシン上で PVF コンパイラが使用可能なフローティング・ライセンスです。複数のマシン上に PGI コンパイラをインストールして、各マシン上で PGI コンパイラを使用することができます。各マシン上でコンパイラを使う際の license.dat の設定の仕方を説明します。

ここでの仮定は、二つのマシン上に PGI コンパイラをインストールすることとします。また、1 台目のマシン上で FLEXlm ライセンス・マネージャを立ち上げることを想定します。この 1 台目のマシンとは、上記の 4.1、4.2 の内容を設定したマシンのことを指します。この FLEXlm ライセンス・マネージャを起動するマシンは、できるだけサーバの停止を伴わないものを選択してください (**ライセンス管理サーバの位置づけ**となります)。

(1 台目のマシン：ホスト名を「hostA」とします：サーバマシンです)

PGI コンパイラを本インストールの手引きに従い、ソフトウェアをインストールし、上記 4.1、4.2 のようにライセンスの設定を行い、FLEXlm ライセンス・マネージャを立ち上げます。これによって、1 台目のマシン上で PGI コンパイラを使用することができます。なお、FLEXlm ライセンス・マネージャのデーモンを起動したこの 1 台目のマシンが、他のシステムにインストールされた PGI コンパイラの動作を管理するライセンスサーバと言う位置づけになりますので、このサーバが停止されると、他のマシン上でのコンパイラが動作しませんのでご注意ください。

(2 台目以降のマシン：ホスト名を「hostB」とします：クライアントマシンです)

PGI コンパイラを「インストールの手引き」に従い、ソフトウェアをインストールしてください。C:\Program files\PGI 配下にある license.dat のファイルに対して、1 台目のマシン上の正規ライセンスファイル (C:\Program files\PGI\license.dat) をコピーし、上書きします。その後、そのファイルの 1 行目 (SERVER 行) のみ残し、DAEMON 行以降を削除します。その後、2 行目に“USE\_SERVER” を記述して改行します。これによって、クライアントの位置づけとなるシステム上では、以下に示すように 2 行のみからなる license.dat を配置することになります。なお、4.2 項で説明した FLEXlm ライセンス・マネージャは、**2 台目以降のマシン上では「停止」してください (「PGI License Server」サービスを停止する)**。これによって、2 台目のマシンで PGI コンパイラがローカルに使用できます。

**(重要)** クライアントの位置づけとなる Windows 上のシステムでは、上記 4.2 項で説明した FLEXlm ライセンス・マネージャのサービスは、「常に起動しない」ように設定してください。インストール時のデフォルトは、システム起動時に自動的にサービスを開始しようとするため、lmgrd プロセスに関するエラーメッセージが現れます。「コントロールパネル」->「管理ツール」->「サービス」->「PGI License Server」のサービスの「プロパティ」画面上で、「スタートアップの種類」を「無効」にしてください。

**【クライアント側のシステム上の license.dat の一例】** (2 行のみで構成する)

```
SERVER hostA <hostid> 27000
USE_SERVER
```

もし、コンパイラ使用時に以下のエラーが生じた場合は、上記 license.dat の SERVER 行の hostA を hosts/DNS により名前解決ができない可能性がありますのでご確認ください。特に、Windows 上の firewall の設定、ウイルスソフトウェアの IP フィルタの設定等に TCP をブロックする設定がなされていないかをご確認ください。



LICENSE MANAGER PROBLEM: Cannot find SERVER hostname in network database

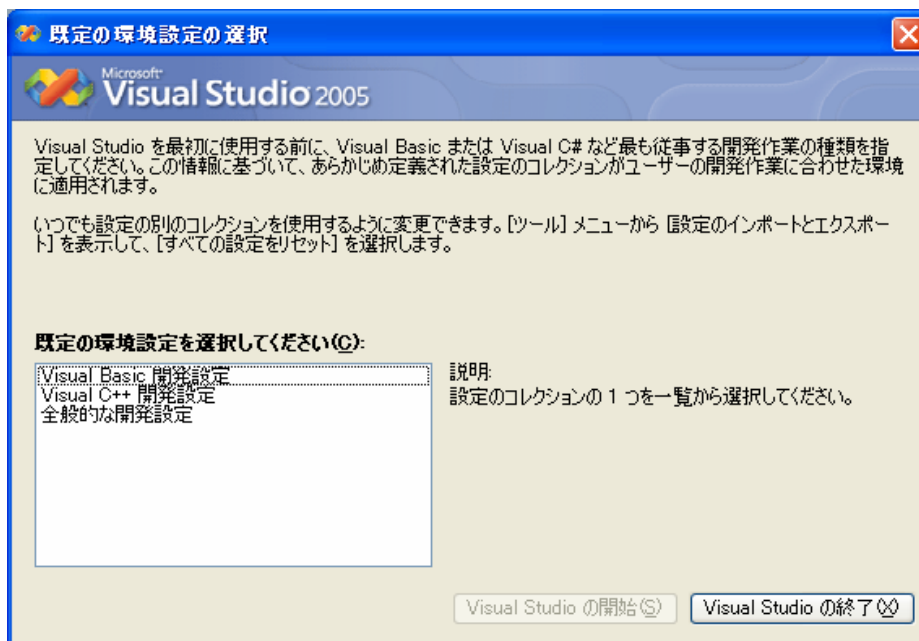
なお、PGI のサーバ・ライセンス製品の FLEXlm ライセンスサーバの設定に関しては、以下の弊社の Web ページ (FAQ) 上でも説明しておりますので、ご参考にしてください。

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/FAQ/faq3.html#009>

#### 4.4 PVF コンパイラの起動

PVF コンパイラは、Visual Studio 2005/2008 統合環境上で使用するため、「Visual Studio 2005/2008」を起動する必要があります。あるいは、Windows の「スタート」->「すべてのプログラム(P)」->「PGI Visual Fortran」->「PGI Visual Fortran」を選択して起動しても、同様な Visual Studio 2005 の画面が現れます。

Visual Studio 2005 を初めて起動した際、以下のような画面が表示されます。Visual Studio の開発作業環境のデフォルトを指定するものですが、これは、「全般的な開発設定」を選んで Visual Studio の開始を行ってください。



#### 4.5 PVF コンパイラ・ソフトウェアのアンインストール

Administrator 権限を有するユーザが、Windows® の「コントロールパネル」の中の「プログラムの追加と削除」で行うことが可能です。PVF をアンインストールする際に、Visual Studio 並びに Visual Studio ヘルプが動作していないことを確認してください。

PVF ソフトウェアは、以下の二つのコンポーネントが Windows 上に登録されており、「プログラムの追加と削除」の画面上に以下のものが表示されます。(②に示す 7.2-5 は、一例です。インストールされたバージョン番号が記されます)

- ① 「PGI Visual Fortran 2005」 or 「PGI Visual Fortran 2008」
- ② 「PGI Visual Fortran (Compilers only) 7.2-5」

①は、Visual Studio 2005/2008 用の PVF のための統合用モジュールです。

②は、PGI のコンパイラ本体部分のモジュールです。この二つを削除することで、PVF ソフトウェアのアンインストールが可能となります。

## 4.6 PVF コンパイラの入門ガイド

Microsoft® Visual Studio 2005/2008 (IDE)環境で使用する PVF コンパイラの一般的な使用方法を簡単に纏めた「入門ガイド」が別途用意されておりますので、ご利用いただく際には、これをご覧ください。

## 4.7 オンラインドキュメントの参照

PGI コンパイラは、PDF 形式のオンラインドキュメント (英文) が同梱されています。下記の Microsoft Visual Studio フォルダに納められております。また、Visual Studio を起動して、オンラインヘルプを参照していただいても PGI Visual Fortran 関係のマニュアルをご覧頂くことができます。

C:\Program Files\Microsoft Visual Studio 8\PGI Visual Fortran\doc

## 4.8 バグフィックスの適用

以下の弊社ホームページにて適時、製品のバグフィックスを公開します。必要に応じて適用下さい。バグフィックスのリリース番号とは、例えば PVF 7.2-5 の場合、ハイフン以降の番号が上がる場合を指します。

<http://www.softek.co.jp/SPG/ftp.html>

なお、Windows® 版のバグフィックスの適用は、再度、新ソフトウェアをダウンロードして、Windows® 上で自己解凍ファイルをダブルクリックして、インストールを行ってください。なお、バグフィックス・バージョンのインストールの場合は、現在のバージョンを「アンインストール」してから行うことを推奨します。「アンインストール」の方法は、コントロールパネルの中の「プログラムの追加と削除」で行うことができます。また、現在動作している「PGI License Server」を停止した後、バグフィックス・バージョンをインストールする際は、C:\Program Files\PGI\license.dat ファイルを別名に退避してから行ってください。その後、インストールが終了次第、このファイルを license.dat という名称に変更してください。以下に、ソフトウェアの再インストールの方法を順番に説明します。

1. 「PGI License Server」を停止する。(上記、4.2 項を参照のこと)
2. 現在のバージョンをアンインストールする。コントロールパネルの中の「プログラムの追加と削除」で行う。
3. C:\Program Files\PGI\license.dat ファイル名を別名に退避する。
4. 新バージョンをインストールする。
5. 別名に退避した license.dat ファイル名を C:\Program Files\PGI\license.dat として戻す。
6. 「PGI License Server」を手動起動する。

## 5 サポートサービスについて

### 5.1 初期サポートサービス

ソフトウェア情報パッケージ未購入のお客様を対象に弊社からプロダクト出荷後 30 日間は、インストール不具合についてのサポートを行っております。下記のメールアドレスまたは FAX にて対応しております。

support@softek.co.jp  
FAX:03-3412-7990

メールの表題には「PGI コンパイラ初期サポート依頼」とご明記下さい。また、メール本文中に、お客様のご氏名・ご所属・ソフテック UserID (SPG2008-XXXX) を必ずご記入下さい。ご記入に不足部分がございますと、対応が遅れることやサポートをお断りする場合がありますのであらかじめご了承下さい。

また、よくあるご質問 (FAQ) ページ並びにコンパイラの使用法、オプションの使い方、その他の技術情報 (TIPS) を以下の場所に用意しておりますので、弊社へのお問い合わせ前にご一読頂ければ幸いです。

(FAQ)

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/pgi-faq.html>

(PGI サポートセンター)

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/support.html>

(技術情報 TIPS)

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/tips.html>

なお、電話での初期サポート依頼の受付は行っておりませんのでご了承下さい。

### 5.2 ソフトウェア情報パッケージご購入ユーザのサポート窓口

ソフトウェア情報パッケージ (サブスクリプション) ご購入のお客様は以下の事項について製品購入時より 1 年間有効となります。期間満了の約 1 ヶ月前になりましたら弊社より更新の案内をさせていただきます。

- サブスクリプション契約期間中におけるソフトウェア製品の無償バージョンアップ
- 電子メール等によるコンパイラ利用上のテクニカル・サポート
- 現在利用している製品より価格が上位の製品へのアップグレードにおける特典

上記につきましては、電子メールと FAX での受付となります。下記のアドレスで対応しております。

[support@softek.co.jp](mailto:support@softek.co.jp) Tel:03-3412-6008 FAX:03-3412-7990

以上